

カトリック

広島教区報

No. 127

カトリック
広島司教区

発行責任者
広報担当
服部大介神父

「点訳版」あります。
お問い合わせください。

広島市中区鞆町 4-42
広島司教館内
TEL (082) 221-6017

司教メッセージ・じゃけえのう
教区の動き
教区テーマの取り組み
J-CARM・地区便り・海峡からの風
青少年・ひと粒

一〜三面
四〜六面
七面
八〜十一面
十二面

広島教区の新たな歩みに向かう準備

―「教区代表者会議」と

「世界代表司教会議」を活かす

広島教区 アレキシオ 白浜 満 司教



ました。全世界的な困難の中でも、わたしたちを慰め、導いてくださる神に信頼しつつ、キリストにおける兄弟姉妹の皆様とともに、広島教区の新たな歩みのために力を合わせて行きたいと思えます。今年も、皆様のお祈りとご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。

新たな絆の体験

主の降誕と初春を迎えて、神の祝福と新たな歩みへの導きをお祈りいたします。
新型コロナウイルス感染症によるさまざまな影響が長引き、その完全な終息も見通せない不安の中で、わたしたちは新しい年を迎え

広島教区は、二〇二三年五月四日に創立百周年を迎えます。この大きな節目のときをともに祝い、神に感謝し、教区として新たな歩みに向かって行くために、教区創立百周年を、今年「教区の日」（九月十九日）〜来年の「教区の日」（九月十八日）まで一年

間かけて祝うことが、昨年十二月十一日に開催された教区宣教司牧評議会で決定されました。そして、教区創立百周年実行委員会も結成されて、その準備が進められていきます。この教区創立百周年を祝う一年を迎える前に、百周年後の教区の新たな歩みについて考えるため、「ともに喜びをもつて福音をのべ伝える教会へ」というテーマで、十一年ぶり第三回目の教区代表者会議（教区シノドス）の第一会期を、昨年の十一月二十三日に開催しました。新型コロナウイルス感染症の影響で一年延期されていたこの教区代表者会議は、皆様のご協力のもとにオンライン形式で実施されました。困難の中にありながらも、先へ進んでいくために協力してくださった皆様の姿を目の当たりにして、わたしは深い感動を覚え、新たな絆を強く感じました。

この教区代表者会議の五つの分科会（福音宣教・平和・多文化共生・協働・養成）で協議していただいた多くの提言に対して、心よりの感謝を申しあげます。これらの提言をもとにまとめられた、百周年後の教区の歩みについての「司教教書」の案を間もなく公表しますので、二月二十三日に開催される教区代表者会議の第二会期（オンライン形式）において、忌憚のないご意見を賜わりたいと思えます。

世界シノドスと教区シノドス

皆様もご存じのように、教皇フランシスコは「ともに歩む教会のため―交わり、参加、そして宣教」というテーマで、二〇二三年十月に

ローマで世界代表司教会議（世界シノドス）を開催することを宣言されました。すでにその準備事務局から世界のすべての教区に質問票が送られ、広島教区でもそれに答える会合や分かち合いが進められています。その締め切りが間もなく一月末となっていますので、各小教区、修道院、活動グループなどのご協力を、



クリスマスの馬小屋（世界平和記念聖堂 鞆町教会）

よろしくお願いいたします。広島教区では、この世界代表司教会議のための質問票に対する皆様からの回答もまとめて、二月二三日に開催される教区代表者会議の第二期で紹介し、分かち合いたいと考えています。そして、教区代表者会議（教区シノドス）の提言に対する「司教教書」（復活祭を目処に公表予定）の中にも、世界シノドスへ回答のまとめを活かしていくことができればと思います。

ところで、教区シノドスの「ともに喜びをもって福音をのべ伝える教会へ」というテーマと、世界シノドスの「ともに歩む教会のため―交わり、参加、そして宣教」というテーマは、福音をのべ伝える「宣教」へと向かう共通点があります。イエス・キリストが人類にもたらされた神の福音を受けとめて、福音を生きる喜びをあかしし、多くの人々を救いの恵みへと導くことが、キリストの教会の使命です。教区創立百周年を迎えて新たな歩みを開始

するにあたり、わたしたちはまずこの根本的使命に立ち戻って、教区の新たな歩みを考えることが大切です。そのために、類似したテーマを掲げている教区シノドスと世界シノドスの準備が重なって、教会の根本的使命について振り返る機会が与えられたことを、神に感謝したいと思います。

新たな歩みのために 原点に戻る

福音をのべ伝える「宣教」へ向かっていくために世界シノドスは、「ともに歩む」（シノダリティ）という理念のもとに、皆が「交わり」・「参加」することの大切さを促しています。キリストにおける兄弟姉妹として皆が親しく交わり、教会活動に参加するところに、まことの喜びもあります。復活の日の夕方、集まっていた弟子たちの真ん中に立ってイエスが「あなたがたに平和があるように」と言われて、その手とわき腹を見せたとき、「弟子たちは、主を見て喜んだ」（ヨハネ二〇・二〇）

じゃけえのう

「じゃけえのう」とは広島弁で「だからね」という意味。

ある日、神父様より「教区代表者会議の準備委員会に行ってくれないか」と声を掛けられ、もちろん私にそんな役目ができる訳もなく「私は知恵も能力もないので、もっと相応しい方にお願います」と断ると、「能力は要らないんだ、分らないことを分らない」という人が必要なんだ」と。

に、ほかの準備委員会の皆さんの顔には不安など微塵も感じられませんでした。福音宣教の使命を、どのように共に歩むことができるのか、また実りある会議にするにはどうすれば良いのか、準備委員会は歩み出しました。

「信徒の目線で分らないと言えはいんです」と引き受けましたが、ここから悲劇が始まりました。

アンケートから始まり、集計・課題・提言案と、準備委員会を進めていく矢先、「新型コロナウイルス」という新たな問題が沸き上がりました。その状況の中でもリモート会議を続け、前に向かって歩いてい

加して私の不安は増すばかり。「二〇二〇教区代表者会議」をどのような形にするのかから始まり、「信徒の声を聴き、これからの教区の歩みを皆で考えていきたい」との司教様の意向をどのように進めていくのか、準備委員会のスタートでした。

初めてのことばかりで必死でついていく私とは裏腹に、二つの道がある、楽な方を選び、必ず道は開けると。

一回目の準備委員会に参加して私の不安は増すばかり。「二〇二〇教区代表者会議」をどのような形にするのかから始まり、「信徒の声を聴き、これからの教区の歩みを皆で考えていきたい」との司教様の意向をどのように進めていくのか、準備委員会のスタートでした。

私は恩師より「人生は常に二つの道がある、楽な方を選び、必ず道は開けると。」

初めてのことばかりで必死でついていく私とは裏腹に、二つの道がある、楽な方を選び、必ず道は開けると。

初めてのことばかりで必死でついていく私とは裏腹に、二つの道がある、楽な方を選び、必ず道は開けると。

これまで、いつもこの言葉を抱き生きてきました。

今回の準備委員会に携わり、苦しいことの連続でしたが、いつも『支援の手』があり、多くの方々に支えられてきました。「助けてください」と祈る日々でしたが、ある日、力のない自分が周りの人を信じず、いかに傲慢であったかに気づかされました。私をいつもサポートしてくださった準備委員会と代議員の皆様、心から感謝します。

教区代表者会議が終わった直後、神父様から「ご苦勞様、良くやったね」と電話があり、とても嬉しかったです。

『神の計らいは限りなく、生涯、私はその中に生きる』

これからも苦難の道を選びながら、生涯を終えるんだろうな？というのが、現在の私の正直な感想です。

教区のことをもっと知ろうよ！

（北若山教会 島本厚子）



光教会ミサ堅信式の様子

のです。そして、イエスは重ねて言われました。「あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす」(ヨハネ二〇・二二)。こう言ってイエスは、弟子たちに息を吹きかけて聖霊を注がれました。

キリストは仰せになっています。「二人または三人がわたしの名によつて集まるところには、わたしもその中にいるのである」(マタイ一八・二〇)。キリスト信者の交わりの中にある喜びは、死者の中から復活され、今も生きておられるイエスとの出会いに、その源があることを、わたしたちは心に留めたいと思います。

広島教区の第一回目の教区代表者会議(二〇〇五年)を受けて、教区の固有の召命と宣言された「平和の使徒となろう」というこの標語には、復活されたイエスとの出会いによつてもたらされる喜びと平和を人々にもたらすためにイエスからわたしたちが派遣されるという意味が込められていることを確認したいと思います。そして、復活されたイエスとの出会いによつてもたらされる喜びと平和をいつの時代にも呼び覚ますために、「ゆだねられた神のみことばという聖なる遺産を守り、粘り強く、使徒たちの教え、兄弟愛の交わり、パンを裂くこと、祈りをたえず保つ」

(第16回通常総会準備文書13) ように心がけてきた初代教会からの遺産と実践を心に留め、そこに立ち戻ること、新たな歩みの原点にしたいと思います。

「ペトロの言葉を受け入れた人々は洗礼を受け、その日に三千人ほどが仲間に加わった。彼らは、使徒の教え、相互の交わり、パン

を裂くこと、祈ることに熱心であった。…信者たちは皆一つになって、すべての物を共有にし、財産や持ち物を売り、おのおの必要に応じて、皆がそれを分かち合った。そして毎日ひたすら心を一つにして神殿に参り、家ごとに集まってパンを裂き、喜びと真心をもつて一緒に食事をし、神を賛美していたので、民衆全体から好意を寄せられた。こうして主は救われる人々を日々仲間に加えて一つにされたのである」(使二・四一〜四七)。

さらなるチャレンジ

教区創立百周年を迎える広島教区は、神の家族としての新たな歩みのために、教区代表者会議の第一会期を終えたばかりです。その実りとして、五つのテーマ(福音宣教、平和、多文化共生、協働、養成)の分科会からの具体的な提言がわたしの手元に届けられています。「ともに喜びをもつて福音をのべ伝える」使命のために、①洗礼を通して

ちに、神の福音(使徒の教え)を土台とする「相互の交わり」を堅固なものとし、②とくに、パンを裂くこと(感謝の祭儀)と祈ることを通して、復活されたキリストと出会う喜びと平和を心に深く受けとめることが、教会活動の原動力であるという認識を共有したいと思います。そして、教会活動のために国籍を越えて(多文化共生)、また異なる立場にある人々が協力して働くこと(協働)、それを持続させていくためにわたしたち一人ひとりの生涯養成を後継者の養成に力を入れていくことを大切にしながら、初代教会の信者の模範を現代に生きるチャレンジを、より一層、推し進めて行きたいと思えます。二月二十三日に開催される教区代表者会議の第二会期の準備のために、第一会期の提言を踏まえて公表される「司教教書」の案に対して、教区の兄弟姉妹の皆様からのご指導とご意見をよろしくお願いいたします。

昨年、十二月十一日(土)、二〇二二年度第二回広島司教区宣教司牧評議会(以下、教区宣司評)が、インターネット回線を利用してリモート形式で開催された。白浜司教、司祭、修道者、信徒の全二十五人が出席した。教区、各地区で行われるリモート会議も浸透しつつあり、出席予定の評議員は会議開始時間までにリモート接続を完了して予定通り会議が開催された。

教区宣司評は、白浜司教の祈りと以下の挨拶で開始された。「十一月二十三日の教区代表者会議(第一会期)を無事に有意義に終えることができ良かった。これから提示頂く皆さまからの提言を熟読し「司教教書」としてまとめたく百周

教区の動き
平和の使徒推進本部

【二〇二二年度(第二回)広島司教区宣教司牧評議会開催】



リモート会議風景 (平和の使徒推進本部 事務局)

その後、各分科会から提言の内容を要約した報告があった。

代表者会議実行委員長の瀧井神父は「百四十名を超える方が参加し、会議を清々しい思いで終えることができた。百周年後の新しい教区の

年に向けて、いよいよ教区がまとまっていく必要があるため、ご協力をよろしくお願ひしたい。」

方向性を決めるための良い話し合いができた実感した。」と感想を述べた。続いて第二会期(二月二十三日開催)に関する説明があった。詳しくは代議員を通じて連絡される予定とのこと。

意見交換後、平和の使徒推進本部から「第二会期を第一会期同様に完全リモート会議形式で開催したい」「第二会期ではことばの祭儀を行なう」ことの提案が

あり、賛成多数で決議された。

次の議題は「世界代表司教会議(世界シノドス)に向けての準備」について、

白浜司教から「既に小教区には連絡済みであるが、進める上で問題や困っていることはないか。一月末期限の質問に対する回答を願ひしたい。」という発言に続き、次の議題「教区創立百周年記念行事」について、記念行事開催要領作成委員長の瀧井神父から現時点の状況について報告があった。

- ◆ 行事のポイントは、
 - ◆ 開年ミサおよび講演会
 - ◆ 閉年ミサおよび講演会
 - ◆ 国際的なことを考慮
 - ◆ 年齢層を考慮し、特に青少年向けの企画を検討
 - ◆ カトリック学校関係の参画を検討
 - ◆ 記念品の製作
 - ◆ ご来賓の選出を検討
- 以上の報告後、今後、具体的に実行へ移すため、記念行事開催要領作成委員会を『教区創立百周年記念行事実行委員会』にすることの

提案があり、賛成多数で決議された。

続いて「教区創立百周年史編纂委員会」から現時点の状況について報告があった。

後半の議題は、前回の教区宣司評(二〇二二年六月十二日)の審議に引き続き、二〇〇八年以降、改定されていない「平和の使徒推進本部規約」について、実態に沿う内容の案が提示され、賛成多数で承認された。

なお改定された規約は同日から施行される。

続いて

議題は、「『社会へのチャレンジ』サブテーマ」について、評議員への問いかけがあった。来

年度(二〇二二年度)のサブテーマ『平和(隣人との関係)』は「社会へのチャレンジ」の三年目(最終)の年度となる。

白浜司教は「広島カリタス(現在、活動休止)の再編」「ボランティア団体を紹介する冊子の発行(既に情報収集済み)」の二つを具体的な行動として提案された。



提言を受け取った白浜司教

提言を受け取った白浜司教

教区宣司評の終盤は、報告事項を中心に、各担当から「各地区の平和行事」「各地区・協働体」「各地区修道女連盟」の報告があり、続いて「新型コロナウイルス感染症の対応」について白浜司教からお知らせがあった。

以上のことが話し合われ、祈りと祝福のうちに三時間の教区宣司評（リモート形式）を閉会した。

なお、次回（二〇二二年 度第一回）教区宣司評は、六月十一日に開催予定。

【二〇二〇教区代表者会議（第一会期）開催】

二〇二一年十一月二十三日、一年の延期を経て二〇二〇教区代表者会議が開催された。今回は広島教区として第三回目になるが、初めてZoomを用いたインターネット上での会議となり、百四十名余りの代議員・オブザーバー（司祭四十一名・シスター十名・信徒代議員とオブザーバー八十九名）がそれぞれ

の教会や自宅からパソコンやスマホで接続し、約六時間にわたって話し合い、分かち合いを行った。参加者にはベトナムやフィリピン等の外国籍の信徒もあり、広島教区を構成する多様なメンバーの参加を得ることができた。このように百名を超える人数がウェブ上で会議をするのは教区として初めてのことで、代議員も含めて事前に複数回の接続リハーサルを経て開催された。

リハーサル時はトラブルや戸惑いもあったが、本番当日はスムーズに接続が進み、代議員一同リラックスした雰囲気での開始を迎えることができた。瀧井神父（平和の使徒推進本部長）の祈り、開会宣言が始まり、白浜司教から「一年の延期があったが無事開催にこぎつけたこと、世界代表司教会議（世界シノドス）の開催も決まり、広島教区としてその両方に皆さんの意見を反映していきたい」とのお言葉があった。世界代表司教会議に関する説明を画面共有した資料を見な

がら受けた後、福音宣教、平和、多文化共生、協働、養成の五分科会に別れて話し合い、分かち合いを行った。分科会によっては多数での話し合いになるため、さらにブレイクアウトルーム機能を使って少人数での話し合いや分かち合いが行われた。

平和の使徒となろう



平和の使徒推進本部

をもとに百周年後の広島教区の姿を一緒に考えていきたいこと、今回の代表者会議が世界シノドスの追い風となったお恵みに感謝したいことが述べられ、参加者全員への心からの感謝の意が表された。

当日参加した代議員からは、Zoomでもとてもスムーズに自分の意見や気持ちを伝えることができたという意見が多く寄せられ、今後の可能性を期待できた。またコロナ禍でなかなか集まれない中で、これらの教会について多くの人の意見を聞き、話し合えたことはとても良かったという意見も寄せられた。同じ思いを持つ多くの人と人との出会いがあったことを喜ぶ声も多かった。二〇二〇代表者会議は第一会期がこれで終了し、二〇二二年二月二十三日に今回の提言を反映した司教宣言案についての話し合いを第二会期として開催することになっている。

【「世界シノドス」について】

平和の使徒推進本部
本部長 瀧井英昭神父

二〇二一年十月十日の聖ペトロ大聖堂のミサにおいて、フランシスコ教皇は世界代表司教会議（シノドス）第十六回通常総会の開始宣言をされました。これを受けて広島教区では十月十七日午後、世界平和記念聖堂（幟町教会）で世界シノドスの準備のための説明会と準備開始ミサを行い、正式に準備を始めました。広島教区の準備担当者は、白浜司教様からの任命で、教区代表者会議の準備にあたっては平和の使徒推進本部の事務局スタッフが世界シノドス準備チームとして担当することになりました。教区代表者会議の準備と並行して行われている世界シノドスの準備は、私たちの教会の現状を見つめなおし、これからの教会（教区や小教区も含む）の在り方を方向付けていく面で重

なり合うことが多く、シノドスの準備を重ねていくうえで適任の担当者と言えるでしょう。

今回の世界シノドスのテーマは「ともに歩む教会のためー交わり、参加、そして宣教」です。「教会にゆだねられた使命に従って福音をのべ伝える教会の刷新のため、それぞれの現場で、聖職者、修道者、そして信徒がどのような経験をし、困難に遭遇し、どのように霊に導かれていくかという声を、世界中から集めています。」(中央協議会文書より)

今までの代表司教会議(シノドス)では、主に責任ある立場の人々の声を集約していましたが、今回のシノドスは今までにない発想で、それぞれの小教区、修道会や修道院の信徒や修道者の直接の声を求めています。

また、説明文の中に

シノダリティという聞きなれない言葉が出てきますが、これは聖霊とともに歩む(旅する)教会という意味です。それぞれの小教区や修道会のメンバーで、聖霊の働きに心を向けながら、旅を続けている私たちの教会の状況を深く見つめて話し合ってください。小教区や修道院のグループで話し合い、意見を一つにまとめて、すでにお送りしている質問票フォームに書き込んでください。そしてそのフォームを平和の使徒推進本部に送信してください。よろしくお願いします。

締め切りは、二〇二二年一月三十一日です。よろしくお願ひします。

本記事に関するご質問などは平和の使徒推進本部まで。

pcaph@hiroshima.catholic.jp

広島教区の小学5年生～高校3年生のみなさんへ

広島教区召命学校十代クラスが、2年振りに開催されます!!

日時 2022年2月26日(土)10時00分～15時00分

会場 カトリック幟町教会 愛宮ラサール会館

テーマ 「見て良しとされた～当たり前前に感謝～」

召命学校十代クラスは、小学5年生から高校3年生の皆さんが、「自分は神様に呼ばれている？」をみんなで一緒に考える場所です。皆さんが同じ場所に集まって、共に分かち合います。また普段、何か相談したくなったら、いつでも下記アドレスに連絡してください。 担当司祭 久保裕己

shomei@catholic.hiroshima.jp

活動紹介のビデオです。見てみてね!! ➡



翠町教会 (広島市)
献堂70周年行事



翠町教会献堂70周年記念ミサの様子

翠町教会（主任司祭アルベルト神父）では、白浜司教様・豊田神父様をお迎えし、二〇二一年十二月五日に教会創立七十周年を記念したミサが捧げられました。白浜司教様からは、先達が始めた神の業を引き継ぎ、イエス・キリストの日にむけて、知る力と見抜く力とを身につけ、希望をもつて歩みましょうと祝福をいただきました。また、当日は十三人の方が堅信のお恵みをいただき、喜びの日となりましたことを神様に感謝いたします。

広島教区テーマ
―社会へのチャレンジ―
岡山鳥取地区の取組

応援しています、
していきます
社会へのチャレンジ
倉敷教会・玉島教会

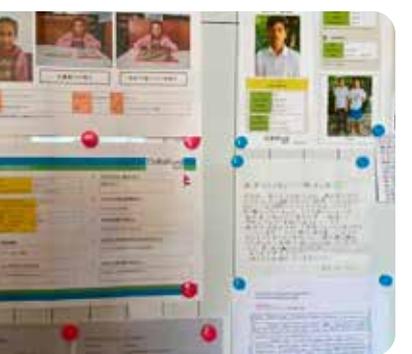


カンゲー寮改築の様子

の出身寮。最初、神父様の呼びかけが一昨年十月にあり、現状の写真を見てお話を聞くことで状況が分かりました。雨漏りがひどく、屋根のトタンが錆び、壁は剥がれ、動物の小屋と変わらぬ状態である事を知りました。

昨年秋の倉敷教会・玉島教会での大変うれしい事をお知らせします。信徒の応援でコンゴ民主共和国のカンゲー寮（創立淳心会土ジャン神父様・寮生は日本の小学、中学生男子に当たる）の建物改築工事費用の支援に關わる事が出来ました。ちなみにレイモンド神父様

の出身寮。最初、神父様の呼びかけが一昨年十月にあり、現状の写真を見てお話を聞くことで状況が分かりました。雨漏りがひどく、屋根のトタンが錆び、壁は剥がれ、動物の小屋と変わらぬ状態である事を知りました。



子どもたちからの手紙

二教会の役員がそれぞれ、かなりの額となる改築資金をどの様にして募るかを話し合いました。皆さんの協力で献金は目標金額に達し、姫路淳心会本部からコンゴキンシャサ管区の管区長宛に送金されました。乾季に入ると同時に工事に掛る必要があります。日本の様に借入がきかず、すべて現金でしか仕事をしない国柄なので、信徒も焦りがありました。信者が何とか送金が間に合いました。大屋根の解体と組み立てと廃材の活用、壁の補強と塗装で建物は明るくなりました。台所は、煙で汚れるので外に小屋を建て、寝室のベッドは

新しくなりました。現地の改修工事の写真を見て、子どもたちの目の輝きに心を打たれました。昨年十月淳心会キンシャサ管区長やカンゲー寮の担当組織団から感謝のお手紙を頂きました。そして昨年十一月、玉島教会隣接の海星幼稚園との共催バザーです。コロナ禍の中、規模を縮小して開催いたしました。バザーの収益金で何か目に見える継続的支援ができたら・・・と一九九四年より二人の里子支援を始めることになりました。対象は就学时より高校卒業までの義務教育期間の子どもです。現在も里子は二名、子どもたちからのお願い、様子は折々に報告され、小さなお手伝いも二十七年を迎えました。残金で釜ヶ崎「ふるさとの家」、岡山ホームレス支援「きずな」等に送金しております。幼稚園の保護者の皆さんに教会から案内の予約販売品も受け

る。このスタイルは変わりません。バザー品目は婦人たちの手作り品が主ですが今年はロザリオやマスクもありました。フィリピンのスラムに住む方の自立支援「アライカプア」（助け合いの意）の商品を購入し販売もしています。また、信者が花の苗を育てて提供されこれが結構喜ばれます。規模縮小のため募金箱を初めて設けましたが思った以上の多くの支援を受けたこと、残りの花苗は地域で永く活動している花いっぱい運動の団体に差し上げ喜ばれたこと、良いバザーとなりました。



ZOOMでのリモート会議の様子

J-CaRM 広島
 二〇二一年度難民移住移動者委員会
 全国担当者ネットワーク合同会議に参加して

国内で生活する外国人は二〇二一年六月地点で二八二万人。先の十一月の広島教区代表者会議では約四割が多文化共生分科会に参加したが、そこで現実問題に悩む司祭、シスターや信徒たちの姿が浮き彫りになった。

わたしたちはコロナ禍以前には戻れないし、明日はアメリカでの竜巻のように一瞬にして町が戦場の跡と化してしまう気

象変動の真つただ中にいる。身近では新型コロナ感染を理由に、施設に入所している高齢者が、家族と面会さえできなくなり孤立させられている。これでは今現在日本がコロナ患者数が少ないことを誇るべきでない。

今回の全国会議では多言語毎に高齢者を訪問する活動報告もあった。そしてこのコロナ禍で益々社会の周辺に追いやられている難民、移住者への取り組みが報告された。今年はコロナ罹患、妊娠、自殺、出産、失職など相談の多い一年だったそうだ。外国人生活困窮者への食糧支援、時間をかけての相談から家庭環境がわかり障害を持つ子の保育園や学習支援のNPOへの紹介、住宅保証金の紹

介などにつながる。また無料医療相談会を電話で行い重症患者の多くを病院対応された。無料定額診療の病院が貧困層の日本人が増えたため外国人を締め出し始めている。

世界は一変して、社会は活動の優先順位を変えた。教皇様の言われる「時の知らせ」を受けて、私たち教会での活動も今何に自分の能力や力を注ぎ行動すべきかを識別しないといけないと強く思う。パウロのように、人間側のプライドを捨て、今まで価値のあると思われた継続してきた活動も手放すことになるかもしれない。しかし私たちは信仰と恵みによって救われるのであつて行いは後からついてくる。そうしてイエス様が望まれる一致した活動が生まれることができればよいと思う。

各国の多文化共生の取り組みを五十か国以上で比較研究した移民統合政策指数(MIPEX20年版)によると日本は平均を下回る、特に「高校教育へのアクセス」は0点。外国人の子供の教育では日本語教育が必要な五万人の半数に指導者がいない現状である。

このように受け入れ態勢がない中、日本は労働力を集めるために、介護、建設、造船などに加えて二〇二二年度には熟練した農業、漁業、製造、外食など(十四分野特定技能)において外国人の在留期限をなくす方向で調整し、家族の帯同も認める。

今は外国人を支援する、されるの関係でなく共に未来を拓く仲間として、共に生きていく時代。そのためには私たちは祈りながら同調圧力が強い日本人から共生する国際人として変化していくことを求められている。(叶堂 恵子)

故榎原 正登様(福山教会)と故榎原 嘉子様(福山教会)から一粒会にご寄付がありました。ご報告とお礼を申し上げます。

感謝
 故榎原 正登様(福山教会)と故榎原 嘉子様(福山教会)から一粒会にご寄付がありました。ご報告とお礼を申し上げます。
 広島司教区 一粒会

教会巡礼・聖書通読写経キャンペーン
 完了者紹介 (敬称略)

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 教会巡礼を完了された方 | 旧聖書写経を完了された方 |
| No.047 山縣 隆宏 幟町教会 | No.001 堀越 瑤 水島教会 |
| No.048 山縣 典子 幟町教会 | 聖書写経を完了された方 |
| 新約聖書写経を完了された方 | No.005 高橋 陽子 祇園教会 |
| No.019 寺戸美津子 益田教会 | No.006 田淵 恵子 廿日市教会 |
| No.020 君永 玲子 観音町教会 | 聖書通読を2回完了された方 |
| No.021 川島 淑子 倉敷教会 | No.010 山下 春穂 水島教会 |
| No.022 沢内 順子 廿日市教会 | No.011 小方サナエ 廿日市教会 |
| No.023 神原 照子 福山教会 | |

地区便り

岡山鳥取地区

*鶴島訪問



鶴島でのミサの様子

鶴島は岡山市街地から東へ列車、車で約一時間はなれた日生港の沖合にあり、逃走防止と島の開墾のため無人島「鶴島」にキリシタンたち（長崎県浦上キリシタン百十七名）が送られ、自由な身になるまでの三年半をこの島で過ごされました。

この島で開墾を命じられていましたが収穫した作物を口にすることはなかったようです。過酷な住環境、改宗をせまられる中、この島で亡くなった十八名のキリシタンたちが葬られています。

岡山県南の小教区が持ち回りで清掃とミサをささげていた時代がありましたが、近年は岡山教会が引き受けており、年に一度は巡礼を計画し多くの皆さんと島に渡っており、昨年、十一月三日に鶴島殉教者岡山教会のお墓参り担当者、司祭十八名で訪問しミサを捧げました。新型コロナウイルス感染症が二〇二〇年二月頃に始まり鶴島流配百五十年記念祭が延期され今年こそはと祈っており、今年も開催することができませんでした。私たちの先祖が求めた（信仰の自由）を思い起こし参加してくださる皆様と語り合いたいと考えています。今年二〇二二年十月十日（スポーツの日）には鶴島巡礼が開催できることを

お祈りしたいと思います。そして、来年は流配百五十年祭として長崎教区の古巣神父様をお迎えして記念講演を予定しております。皆様の参加をお願いいたします。尚、現在墓地は教区の持ち物となっております。浦上キリシタン流配百五十年ニュースレターNo.20もお読みください。(http://www.hiroshima-diocese.net/2021/11/20/post-21577/)

広島地区

*地区召命促進委員会について



2012年4月 向原教会の庭で、当時の教区長、前田司教（現、枢機卿）と後藤正史神父（当時、幟町教会主任）を囲んで集合写真

私の記憶では、一九七〇年前半から、マリア会（幟・観音町教会等婦人会）の有志による、召し出しを願うロザリオの祈りが毎年五月頃行われ、一九七四年五月、小教区の婦人達が立ち上がり、二〇一一年七月「歩いて祈って召命を」：召命祈りの会が発足。

の会が発足。毎年五月、広島地区での召命のためのロザリオ、ミサ、祈り。また十月には、教区でのロザリオ、ミサ、祈り等が行われていました。二〇一二年四月、前田司教様（現、大阪大司教、枢機卿）の意向により、教区召命促進委員会が立ち上げられ、組織として後押しされる様になり発足に至る（感謝）。「十年以内に五人から十人の司祭が叙階される様に努力しましょう。」前田司教談。

二〇一三年五月、広島地区召命促進委員会が発足。区召命促進委員会が発足。予算が出る。二〇一七年まで、担当司祭はフレデリック神父様で、発足後、向原教会での祈りの集いは、あの小さな教会がいつぱいになり司祭達だけで十人位参加しておられました。三篠教会、三原教会、祇園教会、呉教会。二〇一八年は久保神父様（当時、助祭）担当により廿日市教会での祈りの集い、二〇一九年、金ヨンス神父様担当のもと広島教会での祈りの集い。二〇二〇年より再び久保神父様が担当されて今日に至ります。祈りの集いは翠町教会で開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、急きよ取り止め、次年度に延期となり、二〇二一年五月二十三日、翠町教会において広島地区召命祈りの集い予定もまた、新型コロナウイルス禍により中止となり、各小

教区午前のミサで、①召命の祈り②ロザリオの祈り③召命祈願ミサを予定されましたが、ミサは非公開、自粛により、またも延期となり現在に至っております。

召命を祈ることは大切だが、祈ることの他にも私達にまだ出来ることがあるのではないかと、尚、広島地区召命促進委員会は年に五、六回くらい行われます。

「はい、主よ、私はここに控えて居ります。何なりとお申しつけください。」

(観音町教会 角山直子)

***平和アピール 1981 聖ヨハネ・パウロ二世来広記念行事のお知らせ**

日時：二月二十日(日)

十一時～十二時(九時半のミサ後)

場所：世界平和記念聖堂

鞆町教会(新型コロナ

ナウイルス感染症拡大防止のため人数制限あり)

講師：小野島照子(援助修道会)

タイトル：広島と世界をつ

なぐ(過去をふりか

えることは将来に對

する責任を担うこと

四十年前、雪の舞う広島平和記念公園でヨハネ・パウロ二世は「過去を振り返ることは、将来に対する責任を担うことです。」と世界の人々に呼びかけられました。

いま、国内外では紛争に結びつくいろいろなことが発生しています。そんな今を生きる私たちの責任として、また広島に住むキリスト者として、考え、行動するためのヒントになるようなお話を聞きたいと思えます。(次ページにチラシを掲載)

山口島根地区

***地区召命の祈りの集い**

二〇二二年十月三十日

(土)、徳山教会で五十八

名の参加で「山口島根地区

召命の祈りの集い」が開催

されました。コロナウイル

ス感染症の為、各小教区別

十人以上での参加となりました。まず、司祭、修道者

の召命を願ってロザリオの

祈りから始まり、つづいて、

朴神父様の召命物語を

海峡からの風 62

下関労働教育センターだより

たびたびこの欄で触れさせてもらってきたが、ようやく形になって始動するものがあるので、振り返りながら分かちあいたい。

コロナ禍で浮き彫りになった貧困問題に取り組むために下関労働教育センターが拠点になって何かできないだろうか。また輪郭が明確ではないおぼろげな夢に向かって、具体的な一歩として、子どもとみんな食堂「ロクスひよりやま」

が一年前に始まった。みんなが集う場(ロクス)に聖霊の風が吹くことを信賴して。市民の方々、大学生、信徒たちがボランティアとして関わってくれ、子ども

もリピーターとなって「ロクスひよりやま」は繋がりを生んできた。幟を立て続ければ、困窮している人々にも水面下で繋がっている。夏に入る頃、「キッチン

カーがあれば」というス

タッフの思いに風が吹いていると感じた。寄付を募ると、たくさんの方々が善意で応えてくださり、キッチンカー「ロクス号」が仲間として加わることになった。これで外へと出向いていける!!

そして、おぼろげな夢は同時並行して進んでいた。下関を中心に北九州などの地域と協力しながら、子ども食堂、ホームレスの自立支援、移住者の支援をする人々が情報を共有し、協力

していけるセイフティーネットのネットワーク(ネット)を作ろう。事務局に信賴できる仲間が入ってくれ、十一月二十七日、

ついに「いのちの関門ネット」立ち上げ会が、キッチンカーのお披露目を兼ねながら行われた。NPO抱樸の奥田知志氏に応援メッセージをお願いした。「失敗しても大丈夫、あなたがあなたのままでいいと助けあえる社会を」という何よりも大切なメッセージをくださった(YouTube「い

のちの関門ネット立ち上げ会」で見られます)。生活困窮者支援の方々、市の担当の方々が集ってくださいました。それぞれの紹介をして繋がりを確認し、皆で外に出ると、キッチンカーの向こう岸に祝福の虹がかかっている。

大きな問題にどのように向かっていくのか。何ができないのか。一歩先しか見えないけれど、歩いていけば、出会い、仲間の輪が広がり、さらに一歩先が照らされていく。

ちっぽけな自分ではなく、呼びかけ、支えてくれる主を信賴して、みんな向こう岸へと向かっていこう。

(中井 淳 神父)



仙台教区に新司教 長崎教区に新大司教 任命発表

フランシスコ教皇は、2021年12月8日、無原罪の聖マリアの祭日、仙台教区司教として、エドガル・ガクタン神父（淳心会）を、同年12月28日に長崎大司教区大司教として中村倫明補佐司教（長崎大司教区）をそれぞれ任命されました。

中村倫明被選大司教の着座式は、2022年2月23日（水・祝）午前10時30分より浦上教会（司教座聖堂）で行われます。なお、エドガル・ガクタン被選司教の司教叙階式の日程詳細は未定です。



白浜司教（中央）、エドガル被選司教（右から2番目）
広島教区で働く淳心会司祭とともに

拝聴致しました。
パワーポイントを使って、ユーモアを交えての苦しみと悲しみのお話しの中に、イエス様は共にいてくださいました。聖霊の導きによってしっかりと神さまに抱かれて、朴神父様が召し出されたのだと思いい、神様に感謝を致しました。つぎに教区



地区召命祈りの集いの様子

イエズス会の神学生の少ない現状についてお話がありました。最後にミサが行われる召命を願うと共に、一人一人が置かれている場所、神に栄光を少しでも帰すことが出来ます様にと祈りました。
聖霊の導きのもとに、徳山教会の信者が心を一つにして、喜びの内に皆さまをお迎えした、集いとなりました。共に心をあわせて、司祭、修道者の召命の恵みを願って、この集いをお捧げ出来たことを、神様に感謝致します。

ヒロシマと世界をつなぐ

平和アピール 1981 聖ヨハネ・パウロ2世 来広記念行事

「過去をふり返ることは 将来に対する責任を担うこと」

2022年 2月 20日(日)

ミサ 9:30 ~

トーク 11:00 ~ 12:00

カトリック幟町教会・世界平和記念聖堂にて

To remember the past is to commit oneself to the future.

Interviewee Sr. Maria 小野島 照子 (煉獄援助修道会)

1942年日本占領下の台湾に生まれ、終戦後に母・兄弟と広島へ移住。
幟町小・中学校卒。折鶴で有名なヒバクシャ禎子さんと同級生。
戦後復興のヒロシマで、世界平和記念聖堂と共に育つ。
煉獄援助修道会より独裁政権下フィリピンへ派遣。
道端でカテキズム伝え、時には軍から人を匿う。
憲法改正会議に向けてスラム代表をサポート。
いくつもの平和へのあゆみに立ち会う。

2月25日(金)

①来広記念ミサ 10:00 ~ @幟町教会・世界平和記念聖堂 地下
②祈りの集い 11:30 ~ @平和記念公園 原爆死没者慰霊碑

主催 広島地区平和推進チーム

082-221-6613 (月~金 9~17時)

★ 社会状況により関連行事の開催含め変更が生じましたら、再度周知いたします。各位、情報確認にご協力頂きますようお願い申し上げます。

青少年の活動

広島地区リーダー会 子どもミサ

例年、広島地区リーダー会の子ども参加型研修会として、「神父様の講話プラスみんなでレクリエーション」のような集まりを持っていました。

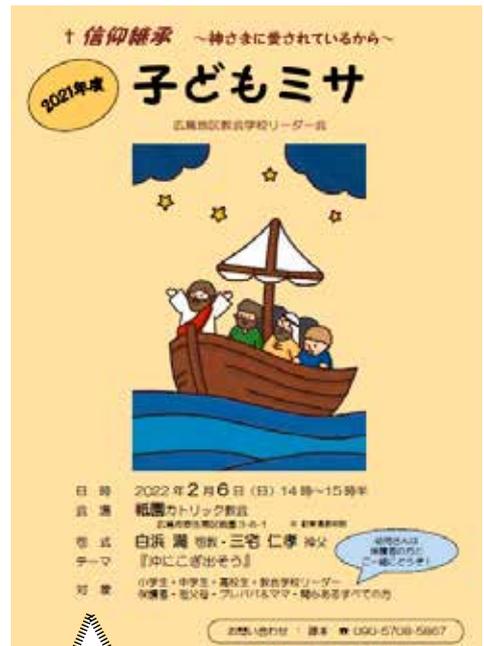
去年はコロナ禍で全く開催できませんでした。今

年はレクリエーションは無理でも、「みんなで集って、ひとつのミサに与る」「そのミサのテーマに沿って、各小教区で準備して、ミサの中でそれらを奉納する」という形の研修会(一番大切なミサ)を計画しました。開催日の典礼「沖にこぎ出そう」をテーマに、その日の福音のシンボルでもある船を、皆さんで奉納したいと考えております。

《地区リーダー会子どもミサ》

日程：二〇二二年二月六日(日)

時間：十四時から
場所：祇園カトリック教会



参加申込みは12月末で締め切っています。
皆様どうぞお祈りください。

まだまだ

『のばなし』募集

教区報百二十五号で募集したところ、たくさんさんの「のばなし」が送られてきました。送って来てくださった皆様、どうもありがとうございます。何号で終わりが分かりませんが、まだ抜けている号もあります！被っても構いませんので、お家で保管されている方！ぜひコピーを右記までお送りくださると嬉しいです。お待ちしています！



学生に伝えたい

— コロナ禍で見えてきたこと —
ノートルダム清心女子大学
学長 シスター 津田 葵



新型コロナウイルスのパンデミックのさなか二〇二〇年四月、国連事務総長アントニオ・グテレスはメッセージを出しました。それにはこれまでジェンダー平等と女性の権利が表向きは認知されてきたもののコロナ禍で男女間に横たわる格差が顕著に可視化されたことを指摘し、その不平等を是正するためには女性

がリーダーシップをとることが肝要であると主張されています。これは国連が掲げたSDGs(持続可能な開発目標)の17の目標のひとつである「ジェンダー平等」への実現というトピックに合致しています。この視点は従来、企業などで活動の方向性などを決める時は男性中心となっていた日本社会において、女性を軸としてリーダーとなり男性と平等な代表権や意志決定権を行使したりすることを意味しています。経済面では生計を立て、うまく運用するた

めの措置をとるために女性が対象となり、そのためには社会的なセーフティネットの拡充が必要です。この根拠は現金給付、クレジットカードや融資に至るまでのプロセスを女性が主導権を握ることにあります。それに加えて、このコロナ禍で女性が職を失い、子供の学校が休校になり、家事、育児、高齢者の介護のニーズが高まってきたことで女性の無償労働者が飛躍的にふくれ上がってきています。また、不幸にも実際にはこのパンデミックに起因する女性への暴力・虐待が顕在化しています。国連の統計によると世界では五人にひとりの女性が過去一年間に心理的、社会的暴力の被害に遭っています。非正規状態で就労せざるを得ない被害者はコロナ禍

で仕事に従事できない状況で金銭的にも苦境に陥っています。

このコロナ禍で国連の事務総長による女性に主に舵取りを求めるという要求と厳しい現実との折り合いをつけることは至難の業であると思います。

しかしながら、女性のエンパワメントが叫ばれている現在、ジェンダー平等の目標はこのパンデミックをきっかけとして、社会的、経済的、法律的に女性の地位を改善し、強化する道へとつながっているのです。よりよい未来を築くため、この社会の現実を目を向け、それに向きあい可能なことをリーダーシップをとって行動に移してゆくことを学生たちにこれから伝えてゆきたいと思えます。

どうかこの年でコロナ禍が終息しますように。そして九月に迎える百周年の開年が、広島教区の新たな歩みのスタートになり、未来が実り多いものになりますように。(ぎん)



〒730-0016
広島市中区幟町4-42
青少年情報センター
メール
hsjc555@gmail.com